

## 新潟市議会代表団 中国訪問 報告書

### 新潟市議会代表団

新潟市議会	議長	永井	武弘
〃	議員	皆川	英二
〃	議員	田辺	新
〃	議員	内山	則男
〃	議員	宇野	耕哉

訪問日程 平成 30 年（2018 年）10 月 17 日から 10 月 19 日まで

10 月 17 日（水） 新潟空港発 — ハルビン太平国際空港着  
山形県ハルビン事務所 訪問  
ハルビン市人民代表大会常務委員会 表敬

10 月 18 日（木） 和糧農業有限公司（農業系企業） 視察  
ハルビン市都市計画館 視察  
ハルビン市政府 表敬  
黒龍江楽活医養家園（養老施設） 視察

10 月 19 日（金） ハルビン太平国際空港発 — 新潟空港着

中国ハルビン市と新潟市は、2019 年に友好都市提携 40 周年を迎える。

今回の新潟市議会代表団の目的は、友好都市であるハルビン市を訪問し、両市の親善、相互理解を深めるとともに、今後の各分野における交流や協力関係の発展について意見交換を行うことである。

新潟市とハルビン市は、医療や水道、青少年などの交流が盛んであるが、新潟市議会代表団がハルビン市を訪問するのは 9 年ぶりである。

10 月 17 日（水）

#### ○山形県ハルビン事務所 訪問

面会者：菊地裕 山形県ハルビン事務所長

#### 【所長による概要説明】

山形県は 2011 年 10 月に中国黒龍江省に山形県ハルビン事務所を開設した。山形県の外郭団体であり、予算は県が出資している。また、会員企業から会費として 3 万円の負担がある。職員は、日本人が 2 名、副所長は荘内銀行から派遣されており、現地中国人スタッフが 2 名となっている。

今年、山形県と黒龍江省の友好提携 25 周年にあたり、学生の文化交流や産業交流が盛んに行われている。

ハルビンで山形県内企業の商談会を開催しているほか、中国の他の都市（大連、杭州、上海など）や、東南アジアなどでも山形県企業の商談に便宜を図っている。近年の商談会は、企業関係者のほかにも、一般のお客さんがやってくるお祭りのものになっている。

その他にも、現在、ハルビン工業大学のドローン技術など、中国側の進んだ技術に注目している。

## 【所見】

黒龍江省をはじめ中国東北地域は、農業資源、工業資源に恵まれ、近年中国国内でも発展著しい地域である。ハルビン事務所を軸として、山形県と黒龍江省の相互発展、交流拡大を進めていることは注目に値した。県産品輸出振興、現地事業機会の拡大支援も行っており、インバウンド誘客につながると思われた。



（写真）事業を説明する菊地所長



（写真）日本企業の情勢などを質疑

## ○ハルビン市人民代表大会常務委員会 表敬

面会者：趙銘（ちょう めい）主任

楊傑（よう けつ）副主任

王元国（おう げんこく）秘書長

王岩（おう がん）弁公庁主任

高会民（こう かいみん）ハルビン市人民政府 外事僑務弁公室主任

## 【概要】

ハルビン市人民代表大会常務委員会（議会）を表敬し、趙銘主任（議長）と会談を行った。趙銘主任から歓迎の挨拶の後、ハルビン市と新潟市が来年（2019年）友好都市提携40周年を迎えることに触れ、両都市の交流拡大に向けて提案があった。その後、永井議長から歓迎に対するお礼の言葉と、両市の交流拡大に向けて、航空便の増便を願っていることを伝え、意見交換を行った。

## 【会談の詳細】

趙銘主任からは「ハルビン市人民代表大会常務委員会を代表して、みなさんを歓迎する。新潟市はハルビン市の最初の友好都市。友好都市提携も来年（2019年）で40周年になるが、両都市の交流は盛んである。私が知る限り、経済貿易、医療、青少年、文化、交通、建設、環境保全など様々な分野で交流が続いている。

ハルビン市内には、両市で共同建設した、ハルビン新潟友誼園という友好の印がある。今年は、ハルビン市の副市長が3人、新潟市を訪問している。2015年には、人民代表大会常務委員会副主任が新潟市を訪問した。

ハルビン市は省都として最も北にあり、農業都市でもあり、またアジアの玄関になった。今ハルビン市は、27か国35都市と友好都市提携している。

私は、2002年、新潟を訪れたことがある。とても良い印象だった。2月に訪れたが、公園を視察し、越冬している鳥を見た。2月のハルビンはとても寒いですが、新潟の冬はすごしやすいと感激した。新潟は米の産地であり、花の栽培も有名だ。その点は黒龍江省やハルビン市とよく似ている。

友好都市提携40周年を迎えるにあたり、私は3つの提案をしたい。まず、経済貿易を強化していきたい。2番目に、両都市の間に直行便を利用して、観光産業を発展していきたい。3番目に、両市の議会の間、今までの交流を基礎として、更なる交流を促進していきたい。」とのお話があった。

引き続き、永井議長より、「来年（2019年）40周年の節目を迎えるが、これまで、さまざまな分野で両市の交流が続いており、市議会としても大変喜ばしい。ちょうど今も青少年と医療関係の使節団が新潟市を訪問中である。ハルビン市は、近年目覚ましい経済発展を遂げられており、冬に開催される「ハルビン氷まつり」は世界的にも知られ、また、ロシア風建築など美しい街並みがたいへん印象的。

今回の訪問では、友好・親睦を深めさせていただくとともに、ハルビン市について理解を深め、今後の市民交流、観光交流の拡大にも結びつけたいと考えている。そのためにも、現在週3便の新潟－ハルビン線について、増便を願っている。

新潟市も、秋から冬の季節を迎えるが、四季を通じて美しく、また、日本有数の農業都市であり、米をはじめ野菜、果物、海産物など、食の文化を誇っている。皆様からも、ぜひ新潟市へお越しいただきたい。」と述べた。



（写真）表敬会場の様子



（写真）趙銘主任（右）と会談する永井議長

10月18日（木）

○和糧農業有限公司 視察

説明者：劉丹丹（りゅう たんたん）さん

【企業概要】

農業関連企業である「和糧農業有限公司」は、中国におけるブランド米「五常米」を主とした様々な穀物や加工品を、生産、販売している企業である。

ハルビン市は、新潟市と同じく、米などの穀物の生産が大変盛んであり、多くの品種が栽培されている。

若者に向けた販売促進のため、パッケージデザインにキャラクターを使用したり、企業PRに中国のSNSを利用したりするなどの取り組みを行っている。顧客は中国でもアップ層で、高級で高品質な商品。社長は女性で、会社内にも女性社員が多く見受けられる。

【所見】

パッケージデザインなどに工夫をこらし、マーケティング活動もしっかりと行っており、对中国向けの輸出において参考になると思われる。また、農業の6次産業化を積極的に進めていることは注目に値した。ネット販売も含めてブランド化を図っており、現在の中国の活気そのものがこういうところにも波及していると思われる。視察後の移動中、早速社長のSNSに、新潟市議会代表団の視察の様子が紹介されていた。話題作りと情報発信を上手に行っていると感じた。



（写真）施設の説明を受ける議員団



（写真）製品の品質や価格、流通状況などを質疑



○ハルビン市人民政府 表敬

面会者：陳遠飛（ちん えんひ）副市長  
高会民（こう かいみん）外事僑務弁公室主任  
曹儒（そう じゅ）外事僑務弁公室副主任

【概要】

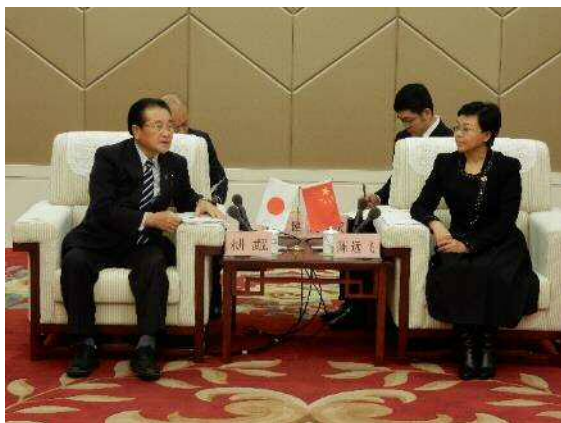
文化、教育、スポーツ担当である陳遠飛副市長より歓迎の言葉をいただいた。  
永井議長から、歓迎に対してお礼の言葉を述べ、今後の両市の交流発展や航空便の増便などの話を申し上げると、陳副市長から増便についての賛同と、両市の交流についての提案などがあり、意見交換を行った。

【会談の詳細】

陳副市長より、歓迎のご挨拶に続き、「来年、友好都市提携 40 周年を迎えるが、両都市は交流を続けている。今年は、3 名の副市長が新潟市を訪問している。2015 年から東アジア文化都市として交流もある。新たな文化交流も期待される。ハルビン市の医療関係者が新潟市で研修を受けている。新潟市と、文化や教育、スポーツでの人的な交流を、今後、一層促進していきたい。」とのお話があった。

永井議長から、歓迎へのお礼を述べ、新潟—ハルビン線の増便を願っているとの話をすると、陳副市長より、「観光は、ハルビン市にとっても重要。これからの発展にもつながっていく。ハルビン—新潟便は週 3 便しかないなので、増便にはハルビン市も協力したい。」との言葉をいただいた。

その他、「今後は、教師団を派遣して、教師同士の交流を強化したい。」などの提案があり、意見交換を行った。



（写真）陳遠飛副市長（右）と会談する永井議長



（写真）ハルビン市役所内の会場

## ○ハルビン市都市計画館 視察

### 【施設概要】

ハルビン市の市街地のまちづくりの博物館である。ハルビン市の都市化には、年代によってロシアや日本が関わり、多様な文化が交じり合って現在の都市になった歴史が詳しく紹介されている。未来の都市像をジオラマと映像によって、イメージしやすく紹介されていた。

ここではハルビンの歴史と今後の展開についてご説明をいただいた。ハルビン市の今後のまちづくりのあり方や方向性がここに集約されていると思われた。



(写真) ハルビン市の歴史や都市計画の説明



(写真) 都市計画を映像とジオラマで紹介

## ○黒龍江楽活医養家園（養老施設） 視察

説明者：蔡曉男（さい ぎょうなん）主任

### 【施設概要】

日本企業の長谷川トラストとの合弁会社が経営する大型老人ホームである。今後中国でも問題となる超高齢化に向けて、老人ホーム及び養老施設として、12棟建設され、2017年から営業開始。2人部屋で最大5000人収容する。現在100人ほどが生活していた。

### 【所見】

中国は日本よりもさらに少子高齢化が今後深刻になるとみられている。日本の先進的な取り組みをモデルとして積極的に取り入れているようである。一人っ子政策などを推し進めてきた影響で日本以上に課題が多いと思われる。今後どのように勸めていくことになるのか注目していきたい。



(写真) 介護部屋の様子



(写真) 毎日の食事など

## ○総括

今回のハルビン市人民代表大会常務委員会主任及びハルビン市副市長への表敬訪問は、ハルビン市の新聞やテレビのニュースで報道された。ハルビン市は黒龍江省の省都で人口が 900 万人以上であり、新潟市議会議長の訪問によって、新潟市の大きなPRができたと思う。

日中関係は政治面で様々な課題があり、解決に向けては憂慮する点が多く存在している。しかし、こうした訪中活動における直接対話による交流を続けていくことが大切であると思われた。お互いに率直に胸襟を開いて、自ら思うことを中国側に伝えると同時に中国側の意見を聞き、共に今後の日中関係を考え、将来の日中関係の有り様を模索していくことで真の信頼関係は構築していくと思われる。

これからも、新潟市議会としてハルビン市との交流を続けることによって、両市の発展と良好な関係構築への一助となることを期待している。

最後に、今回ハルビン市への代表団の一員として貴重な経験の機会をいただいたことに御礼申し上げ、ご報告とさせていただきます。